鼎談

介護ロボットを〝使える力チ〟に

厚生労働省「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業」とは

「相談窓口」に行こう

介護をする人の負担軽減と介護を受ける人の安心安全・快適性を高めるために、介護ロボット活用が始まっています。身近なところでは、歩行器に傾斜センサーなどが搭載され、上り坂ではアシスト、下り坂では速度制御をする「屋外用移動支援機器（電動アシスト付き歩行器）」や、体調の急変時や転倒転落をセンサーで検知し、いち早く家族や施設職員に知らせる「見守り機器」などがあります（図）。介護現場が購入する際には、公的な購入補助制度も充実しています。普及フェーズに入った介護ロボットですが、実際は介護現場から「補助金があっても高額なので慎重になってしまう」「介護ロボットのことがよくわからない」など、介護ロボット導入の支援を求める声があるのも現実です。そこで厚生労働省は昨年8月より「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業」を開始し、介護施設を対象に、無料で「導入相談（業務改善方法・補助金申請など）」「機器展示・体験」をするとともに「試用（機器貸出）」などができる相談窓口を開設しました（表）。現在、全国13カ所に開設される相談窓口の最前線から、福岡県・佐賀県・長崎県・大分県を所管する「九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター」（北九州市）の樽本洋平センター長（理学療法士）と、滋賀県・大阪府・奈良県・和歌山県を所管する「ATCエイジレスセンター介護ロボット相談窓口」（大阪市）の業務アドバイザー逢坂大輔氏（理学療法士）、同窓口担当の江藤幸子氏に、介護現場への普及の課題と成功に導くポイントを鼎談してもらいました。

「九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター」センター長
樽本洋平氏

（たるもと・ようへい）
1979年生まれ。理学療法士。「北九州市介護ロボット等導入支援・普及促進センター」兼「九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター」センター長。麻生教育サービス所属。医療、介護保険分野での経験から介護ロボットの開発や導入の支援、介護ロボットを活用した介護業務の普及、促進を支援。

変わり始めた介護ロボットの「認知」「評価」

樽本　当センターは、国のプラットフォーム事業の受託により、九州北部4県の相談業務を担当しています。さらに今年4月には北九州市独自の「北九州市介護ロボット等導入支援・普及促進センター」も受託しています。私はその両方のセンター長という立場です。それ以前は理学療法士として病院、医療法人で急性期、回復期のリハビリテーションや訪問リハビリに従事してきました。

これに先駆けて、北九州市は2016年から5年間、国家戦略特区として介護ロボット開発や導入などを行ってきました。

介護施設のスタッフとして従事していたコーディネーターもいます。介護ロボットを受け入れる施設側の立場もわかるコーディネーターです。

逢坂　今年6月に発足したATCエイジレスセンター介護ロボット相談窓口の業務アドバイザーをしています。

介護ロボットとの出会いは、理学療法士として腰痛対策レクチャーで介護現場をまわる中で、負担を軽減する移乗支援の介護ロボットに関心をもったことです。ただ、当時の介護ロボットの評価は「現場では使えない」と考える人が多く、正直あまり芳しくなかったです。

ところが最近では、相談窓口に製品を指定し相談されるようになっています。製品自体に対する評価も高まってきているように感じています。

樽本　そうですね。当センターでも、装着型の移乗支援機器と見守り機器に関する相談が多いです。

特にイノフィス「マッスルスーツEvery」はテレビCMでもおなじみで、その効果かなとも思っています。

見守り機器は機種により「できる（できない）こと」「価格帯」「検知方式の違い」など機種選定に専門性が必要なので、各製品の違いを説明し、当事業を活用して、まずは試用をお勧めするようにしています。

施設ごとの最適解を提案

江藤　ATCエイジレスセンター介護ロボット相談窓口で、相談・支援についての窓口業務を担当しています。相談の内容は大きく2つに分けられ、製品指定で相談に来る人と、もう一つは「腰痛対策と夜間見守りの業務見直しについて相談したい」と解決したい課題を挙げて相談に来る人です。

製品名を挙げられる人は「補助金を受けること」が目的の人なので、補助金等について説明します。その際、当事業を活用した導入前の試用もお勧めするようにしています。

一方、解決したい課題を挙げて相談に来る人は、介護現場の現状や課題についてじっくり現状を聞いて、逢坂アドバイザーとも連携を取りながら最適と考えられる提案をします。

樽本　当センターでも、福岡県の介護ロボット導入補助金の申請期限の8月31日までは、申請相談に忙殺されていました。しかし、補助金があるから動機付けになったという側面も大きいです。

江藤　相談に来られた方の中には、じっくりと業務改善や負担軽減を相談する目的で来られたものの、その年度の補助金申請に間に合わないことが判明すると、諦める人がいました。

じっくり検討してからでも補助金申請に間に合うような、制度の柔軟さがあれば、介護ロボット導入・活用に動く施設が増えるのではないかと思います。

樽本　課題はあっても、相談窓口を「失敗しないために相談し、体験・試用してから、補助金で導入する」という一連の相談ができる窓口として活用していただければと思います。特に「試用」は、購入前に試せる点で、当事業の中でも重要です。

たとえば床走行式の「移動支援機器」は、床の材質によって使用感や使い勝手に違いが出ますので、試用後に購入する効果は高いといえます。使用を想定する対象者についても、事前に試せれば、介護施設も安心して購入できます。

福祉用具を介護施設に販売する事業者も「試用」をご紹介いただき、安心して購入できるように活用いただければと思います。

介護施設に定着させる「大変さ」「大切さ」

樽本　介護ロボット活用で大事なのは、導入後に、いかにして業務の中に介護ロボットを定着させるかということです。介護ロボットを使うのは人です。使う人に心の底から納得してもらい行動をあらためるには、教育もセットでなければ「補助金で導入した。今は使っていない」という状況になりかねません。

逢坂　介護ロボットを導入する目的はケアの質の向上を第一に、業務改善や介護生産性を高めることとされますが、介護職の教育カリキュラムにそうした考え方はありませんでした。

腰痛になりにくい介助方法とか、そのための体の支点移動について教わる程度でした。「使い方がわからないから使わない」とならないように、もう一度、介護現場のミドル層以上も含めて、勉強しなおす必要があるのではないかと考えます。

樽本　北九州市では4年前に、独自の研修制度「介護ロボットマスター育成講習」を始めました。全職員対象の業務改善への取組み支援が相談窓口の役割のひとつでもあります。成功事例をうまく発信していくことで、後に続く介護施設も成功に導くことができるのではないかと考えています。

樽本　私も介護施設関係者とお話しする中で「意外とすることが多いのですね」と言われることがあります。介護ロボットとは、人に代わってできる部分は、きっちりとしてくれるパートナーといった位置づけです。

同時に、皆さんが思われている以上に人間的というか、温かいケアを提供することができるものでもあります。

よく「人をモノのように扱う」「人の手でないのは冷たいケアだ」との批判的な見方もあるのですが、看取りケアで介護施設を利用される方が急変されたときに、バイタルデータの兆候から事前に察知して、速やかに家族にお知らせし、ご本人の最期を看取ることができたこともありました。数時間ごとの巡回では、息を引き取られた後の発見になりかねないところを、お看取りできたというのも介護ロボットだからできたといえるのではないでしょうか。

今後の注目の介護ロボット分野

樽本　大袈裟かもしれませんが、物事の状況や流れを一変させるという意味で、私はスタッフ間のコミュニケーションをスムーズにする機器に注目しています。というのは、国家戦略特区事業に5年間携わらせていただいた中で、様々な介護ロボットを上回る効果・評価があったのがインカムだったからです。

最近ではスマートフォンアプリで、ケア記録を発声すればテキストに書き起こしてくれる製品に、インカム機能も追加できる製品も登場しています。

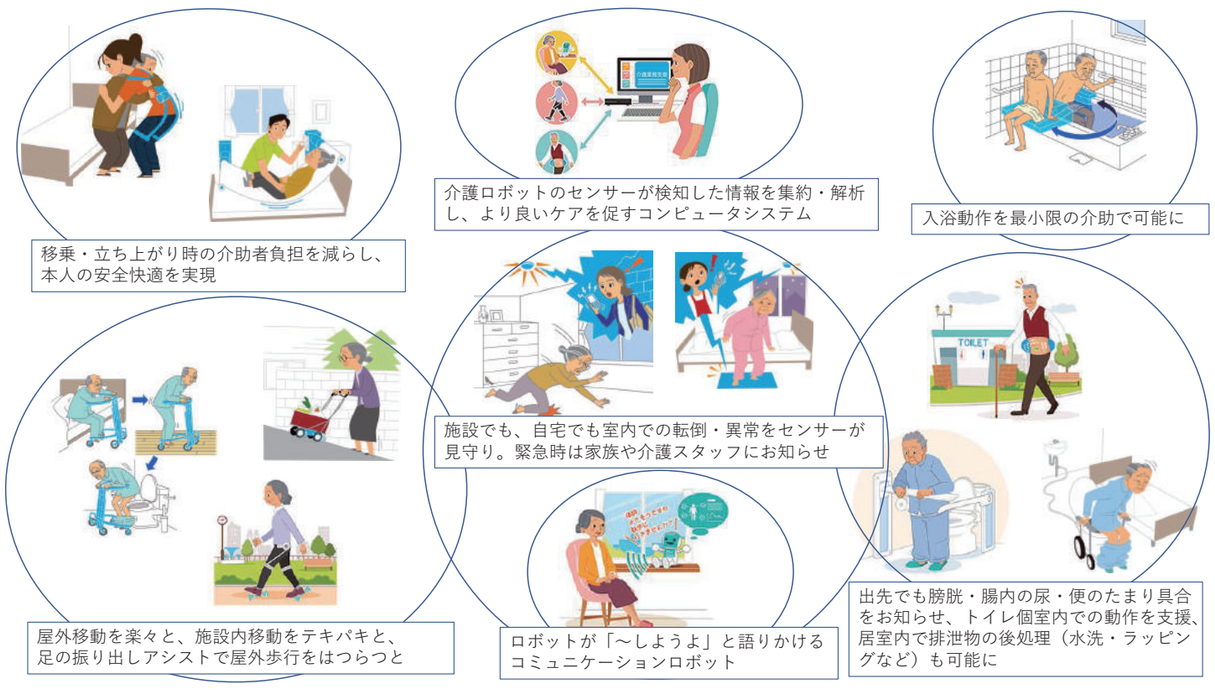
逢坂　私は、見守り機器の更なる普及を目指すべきだと考えています。見守り機器を導入した施設は「今までの定時の全室訪室は何だったのか」というほどの気づきを体験されることが多いからです。

樽本　あと、介護現場で排泄や入浴にはかなり負担が高いと考えていますので、排泄支援や入浴支援分野のロボットは潜在ニーズが高いのではないかと考えています。対応する機器の開発や改良が期待されるところです。

特に、排泄動作をできるだけ介助を少なくできる機器は求められますね。介護施設では、利用者をトイレ個室に誘導し、2人がかりで介助しています。

一人は利用者の体を支え、もう一人が下着を上げ下げしたり、おしりを拭いたりするのです。この2人介助が当たり前の動作を1人でできる介護ロボットが期待されており、これも潜在的なニーズが高いのではないかと考えています。

（図）国の推進する「重点６分野・13種」



「ATCエイジレスセンター介護ロボット相談窓口」業務アドバイザー
逢坂大輔氏

（おおさか・だいすけ）
1975年生まれ。理学療法士、作業管理士。シーエフロボタス代表。ロボットビジネス支援機構アドバイザー／日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会　世話人。医療機関、介護保険領域でのリハビリテーション場面に従事したのち、介護職員向け腰痛対策の講師を経て、現在は現場とメーカーを繋ぐリハビリ・介護ロボットの導入を支援している。

「ATCエイジレスセンター介護ロボット相談窓口」窓口担当
江藤幸子氏

「相談窓口」って何？

相談窓口とは、介護ロボットの導入に向けた相談をしたい介護施設関係者や、製品の普及を目指したい介護ロボットメーカーを対象に、両者の間に入って調整をする拠点です。具体的には、介護施設に対して▽導入にあたっての各種相談▽補助金申請の説明・支援▽購入前に「試用」をしてから決めるためにメーカーと調整――などが主な業務です。

厚生労働省の「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業」（受託：NTTデータ経営研究所）が根拠となっており、介護施設の相談・試用に関する費用は無料、介護ロボットメーカーに対しても試用機貸出経費が支払われる仕組みです。

現在13拠点が開設されていて、14番目となる「新潟・長野・群馬」エリアが完成すると、全国47都道府県に体制が整います。

より良い製品と補助金制度が完成した今、普及フェーズに入るために必要な「ほんの一押し」をすることで、介護ロボットの開発・実証・普及の流れを加速化することを目指しています。

ほかにも同事業では、介護ロボットメーカーのための「リビングラボ（開発の促進機関）」の整備を進めています。

事業紹介動画

（表）

社会福祉法人 北海道社会福祉協議会 北海道介護ロボット普及推進センター 所管：北海道	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター 所管：静岡・愛知・三重
●プラットフォーム相談窓口（Web 相談可） 札幌市中央区北６条西 16 丁目１番地５ ほくたけビル TEL：070-5608-6877 ●北海道社会福祉協議会 本部事務局 札幌市中央区北２条西７丁目１番地 かでる 2.7 TEL：011-241-3982 アドレス：tani15@hokutakehd.jp URL：http://www.dosyakyo.or.jp/carerobot/	愛知県大府市森岡町 7-430 TEL：0562-46-2311 アドレス：platform2020@ncgg.go.jp
社会福祉法人 青森県社会福祉協議会 青森県介護啓発・福祉機器普及センター 所管：青森・秋田	ATC エイジレスセンター 介護ロボット相談窓口 所管：滋賀・大阪・奈良・和歌山
青森市中央３丁目 20-30 TEL：017-777-0012 アドレス：robot@aosyakyo.or.jp	大阪市住之江区南港北２丁目 1-10 ATC ビル ITM 棟 11F TEL：06-6615-5123 アドレス：info@ageless.gr.jp
公益財団法人 いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター 所管：岩手・宮城・山形・福島	ひょうご KOBE 介護・医療ロボット 開発・導入支援窓口 所管：京都・兵庫・鳥取
岩手県盛岡市本町通３丁目 19-1 岩手県福祉総合相談センター３階 TEL：019-625-7490 アドレス：ikrobo@silverz.or.jp	神戸市西区曙町 1070 TEL：078-925-9282 アドレス：robo-shien@assistech.hwc.or.jp
社会福祉法人　埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館 所管：茨城・栃木・埼玉	社会福祉法人 健祥会 徳島県介護実習・普及センター 所管：徳島・香川・愛媛・高知
さいたま市浦和区針ヶ谷4- 2- 6５ TEL：048-822-1195 アドレス：kaigosmile@fukushi-saitama.or.jp	徳島市国府町東高輪字天満 356 番地１ TEL：088-642-5113 アドレス：presen@kenshokai.group
社会福祉法人 横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 介護ロボット相談窓口 所管：東京・千葉・神奈川・山梨	一般社団法人 日本福祉用具供給協会 広島県ブロック 所管：島根・岡山・広島・山口
横浜市港北区鳥山町 1770 TEL：045-473-0666（代） アドレス：HP にてお問合せください URL：https://www.yrc-pf.com/	広島市安佐南区大町東 1-18-44 TEL：082-877-1079 アドレス：jimukyoku@fukushiyogu-hiroshima.jp
社会福祉法人 富山県社会福祉協議会 福祉カレッジ 介護実習・普及センター 所管：富山・石川・福井・岐阜	九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター 所管：福岡・佐賀・長崎・大分
富山市安住町５番 21 号 TEL：076-403-6840 アドレス：robot@wel.pref.toyama.jp	北九州市小倉北区馬借一丁目7- 1 総合保健福祉センター１階（福祉用具プラザ北九州内） TEL：080-2720-2646 アドレス：krobot@aso-education.co.jp URL：https://aes-medicalwelfare.com/krobot/
※　新潟・長野・群馬は現在調整中	鹿児島介護実習・普及センター 所管：熊本・宮崎・鹿児島・沖縄
	鹿児島市山下町 14-50 かごしま県民交流センター内 TEL：099-221-6615 アドレス：kaigo7-kakenshakyo@po5.synapse.ne.jp

ATCエイジレスセンター
介護ロボット相談窓口
介護ロボットの試用貸出 無料
相談 無料
体験・展示 無料
開発企業からの相談も受付中
職員の腰痛対策をしたいんだけど、介護ロボットで何かできるかな？
見守り支援ってどんなものがあるの？
試してみたいんだけど…
介護施設からの相談受付中
※当窓口の担当エリアは大阪府、奈良県、和歌山県、滋賀県です。
介護ロボットを無料でお試しいただけます※
※貸し出しを行う企業への取次を行います。詳しくはHPをご覧ください。
※本事業は、令和3年度厚生労働省事業「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業」の一環で実施しています。
住所／〒559-0034 大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビル ITM棟11階
相談窓口／10:00～16:30 ※日・月曜、年末年始を除く
展示場／10:00～16:30 ※月曜、年末年始を除く
お問い合わせ／ 06-6615-5123 ／ info@ageless.gr.jp
詳しくはWEBサイトをご覧ください。
https://www.ageless.gr.jp/robot/